

取産 香遺

Vol.90

国天然記念物 「府馬の大クス」 台風26号被害からの 復旧に向けて



▲本体の幹が剥離したところ



▲被災前の大クス



▲被災後の大クス

府馬の大クスは、府馬地区の宇賀神社境内にあり、古くから地域のシンボリックな存在として親しまれてきました。

大正15年（1926）には、早くも国の天然記念物に指定された巨樹で、樹高は約16m、幹周は約15m、幹の起伏や根の隆起、太く大きな枝張りなど、その偉容は見る人を魅了してきました。県外からも多くの見学者が訪れています。

その府馬の大クスが、10月16日の台風26号の影響により、大きな被害を受けました。

被害は、大クス本体の東側の幹が縦に割れて、その上に伸びていた太い枝ごと、南側にある鳥居方向へ倒壊しました。このため、幹の一部が剥離し、内部が露出した状態になってしまいました。

近年は、根の腐朽や幹の空洞化により樹勢が弱っていたことから、市では平成15年度以降、樹勢回復などに努めてきました。残念ながら今回

は強風を伴う稀に見る台風であったため、耐えられなかったのかもしれない。

この被害を受けて市では、幹の剥離箇所を仮養生した上で、文化庁や県担当課などと復旧措置の検討を進めました。これにより、現在は、樹木医が中心となり、本体幹の剥離箇所の治療および表面の景観を整えるなどの復旧措置を施しています。また、倒れた樹木側の太い枝も、大クス近くに移植して保存していきます。市では、今後も文化庁などと協議しながら、現在の樹木の状態を維持、保全を図りつつ、樹勢を回復させることに努めていきます。

その姿は少し変わりましたが、国の天然記念物としての価値は変わりません。新たに生まれ変わった大クスとして、今後も見守ってください。

問い合わせ

生涯学習課

☎(50)1224